

令和4(2022)年度 卒業生・就職先企業等へのアンケート調査結果報告

調査の趣旨： 卒業生及び就職先企業等にアンケート調査を実施し、ディプロマ・ポリシーに照らして、教育成果を検証し、教育活動の改善に反映させ、教育の質保証の推進に役立てる。

調査対象と方法： 卒後3年目となる2019年度卒業生（2016年度入学生）全員とその就職先企業等を対象にWeb調査を行った。卒業生の回答率は14%、企業等の回答率は43%であった。

質問内容：

【卒業生調査】 ①在学中の学習活動等に在学中熱心に取り組んだ程度、②社会人となって各学習活動等が役立っている程度、③6DPに対応させた14の能力等の獲得に本学教育が有効だったか、④各能力等が今の社会や職場での必要と思うか。

【就職先企業調査】 14能力等を企業として重視しているか。

調査結果のまとめ

在学中の各学習活動等への熱心さ

	平均(SD)
専門教育科目	0.55(.43)
共通教育科目	0.37(.45)
外国語	0.24(.59)
卒論・専門ゼミ	0.54(.39)
部・サークル	0.49(.63)
アルバイト等	0.50(.58)
就職活動（資格試験含）	0.21(.69)

熱心だった（1）～熱心ではなかった（-1）

①在学中の各学習活動への熱心さでは、全体に0以上の評価であったが、その中でも「専門教育科目」及び「卒論・専門ゼミ」は相対的に在学中に熱心に取り組んだと認識されていた。その一方「外国語」や「就職活動（資格・試験勉強等含む）」は低かった。

各学習活動等の役立ち度

	平均(SD)
専門教育科目	0.43(.59)
共通教育科目	0.28(.52)
外国語	0.20(.61)
卒論・専門ゼミ	0.18(.57)
部・サークル	0.37(.57)
アルバイト等	0.62(.53)
就職活動（資格試験含）	0.38(.64)

役立っている（1）～役立っていない（-1）

②社会人となった現在、役立っている在学中の学習活動等の評価では、やはり全体的には0以上の評価であったが、「専門教育科目」や「アルバイト等」の評価が高く、「外国語」や「卒論・専門ゼミ」が低かった。

卒業生が考える各能力等を獲得するための本学教育の有効度

	平均(SD)
1. 个性的かつ堅実な人間性, 自主性, 創造性	0.42(.56)
2. 人類の文化, 社会と自然に関する教養	0.21(.61)
3. 物事を科学的に, 論理的に考える方法や力	0.25(.70)
4. コンピュータの操作方法や情報処理技術	0.26(.65)
5. コミュニケーションの能力	0.33(.64)
6. 自ら学ぶことが楽しく, 喜びであると感じる姿勢	0.41(.66)
7. 専門分野や所属する学科の専門知識や技能	0.53(.68)
8. 総合的な問題発見能力や課題を解決する能力	0.30(.59)
9. 仕事や働くことの意味についての自分自身の考え	0.21(.70)
10. 生涯にわたって学習を続けていく意思や力	0.41(.59)
11. 倫理観	0.36(.59)
12. 地域社会の発展に貢献したいという気持ちや意識	0.20(.69)
13. 多様な言語・社会・文化に対する理解	0.30(.62)
14. 国際人として活躍する素地	0.14(.68)

有効だった (1) ~有効ではなかった (-1)

本学 GDP を整理した各能力等の獲得に, ③本学の教育は有効であったかについて, 全体的にはすべて 0 以上の評価であったが, その中でも「7. 専門知識や技能」が最も高く, 次いで能力等 1, 6, 10 などが高く評価されていた。一方, 能力等 2 や 9, 12 などの評価は低く, 「14. 国際人として活躍する素地」は相対的に最も低く評価されていた。

卒業生が考える各能力等の今の職場や社会での必要度

	平均(SD)
1. 个性的かつ堅実な人間性, 自主性, 創造性	0.58(.63)
2. 人類の文化, 社会と自然に関する教養	0.37(.63)
3. 物事を科学的に, 論理的に考える方法や力	0.53(.61)
4. コンピュータの操作方法や情報処理技術	0.63(.61)
5. コミュニケーションの能力	0.83(.42)
6. 自ら学ぶことが楽しく, 喜びであると感じる姿勢	0.62(.57)
7. 専門分野や所属する学科の専門知識や技能	0.38(.73)
8. 総合的な問題発見能力や課題を解決する能力	0.63(.61)
9. 仕事や働くことの意味についての自分自身の考え	0.61(.57)
10. 生涯にわたって学習を続けていく意思や力	0.67(.51)
11. 倫理観	0.53(.61)
12. 地域社会の発展に貢献したいという気持ちや意識	0.45(.65)
13. 多様な言語・社会・文化に対する理解	0.43(.57)
14. 国際人として活躍する素地	0.22(.71)

必要 (1) ~必要ではない (-1)

④今の職場や社会で必要だと思う能力等については, 「5. コミュニケーション能力」が最も必要だと認識されており, 次いで能力等 4 や 6, 8, 10 などが高かった。一方で, 「2. 教養」や「7. 専門知識や技能」はあまり必要でないと評価されており, 中でも「14. 国際人として活躍する素地」は最も低く評価されていた。

企業等が重視する能力等

	平均(SD)
1. 個性的かつ堅実な人間性, 自主性, 創造性	0.64(.41)
2. 人類の文化, 社会と自然に関する教養	-.09(.61)
3. 物事を科学的に, 論理的に考える方法や力	0.31(.57)
4. コンピュータの操作方法や情報処理技術	0.18(.59)
5. コミュニケーションの能力	0.93(.25)
6. 自ら学ぶことが楽しく, 喜びであると感じる姿勢	0.72(.35)
7. 専門分野や所属する学科の専門知識や技能	-.02(.62)
8. 総合的な問題発見能力や課題を解決する能力	0.72(.30)
9. 仕事や働くことの意味についての自分自身の考え	0.67(.38)
10. 生涯にわたって学習を続けていく意思や力	0.63(.45)
11. 倫理観	0.64(.48)
12. 地域社会の発展に貢献したいという気持ちや意識	0.66(.45)
13. 多様な言語・社会・文化に対する理解	0.27(.54)
14. 国際人として活躍する素地	-.21(.58)

重視している (1) ~ 重視していない (-1)

③及び④と同じ各能力等について、⑤企業として重視している程度を尋ねた。企業が重視する社員の能力等は、「5. コミュニケーション能力」が最も高く、次いで「6. 学びの楽しさ・喜び」「8. 問題発見・課題解決能力」が重視され、企業間の相違 (SD) も比較的小さい。一方、「2. 教養」や「7. 専門知識や技能」は標準偏差は総じて大きいですが、相対的に重視されておらず、ほぼニュートラルな評価であった。「14. 国際人として活躍する素地」は、最も低く、重視していない能力等として捉えられていた。また「4. コンピュータ操作や情報処理技術」や「13. 多様な言語・社会・文化に対する理解」は重視されている程度が低かった。

※本調査の IR 報告書で示された提言を承け、大学 DP 及び三つのポリシー間の整合性の検討が行われ、DP 及び CP が 2023 年度に改正される予定である。

※本調査の IR 報告書で示された提言等を承け、特に、教養教育の一層の充実と卒業研究・卒業論文の教育目標の見直しを踏まえた新カリキュラムを 2023 年度に適用した。